

数学特論8 (学部)
表現論大意 (大学院)

レポート問題

出題：2010年7月22日

(担当：野村隆昭)

- * 小問のすべてに解答すること.
- * A4 レポート用紙にて数理事務室に提出のこと.

提出期限：2009年8月20日(金) 17時 厳守

[1] 以下では、 \mathbb{R}^{n+1} を縦ベクトル $\mathbf{x} = \begin{pmatrix} x_0 \\ x_1 \\ \vdots \\ x_n \end{pmatrix}$ の空間と見る. \mathbb{R}^{n+1} の標準内積を $\mathbf{x} \cdot \mathbf{y}$ で表す. そして、 \mathbb{R}^{n+1} に 3 項積 $\{\mathbf{x}, \mathbf{y}, \mathbf{z}\}$ を次で定義する：

$$\{\mathbf{x}, \mathbf{y}, \mathbf{z}\} := \frac{1}{2}((\mathbf{x} \cdot \mathbf{y})\mathbf{z} + (\mathbf{z} \cdot \mathbf{y})\mathbf{x}).$$

- (1) この 3 項積によって、 \mathbb{R}^{n+1} は Jordan triple system (以下 JTS と書く) になることを示せ. この JTS を V と書くことにする.
- (2) V は正定値な JTS であることを示せ. 実際、 $\text{tr}(\mathbf{x} \square \mathbf{y})$ は $\mathbf{x} \cdot \mathbf{y}$ の正の定数倍になることを示せ.
- (3) $\{\mathbf{c} \in V; \mathbf{c} \text{ は non-zero tripotent}\} = \{\mathbf{c} \in V; \mathbf{c} \cdot \mathbf{c} = 1\}$ を示せ.
- (4) $\mathbf{c} \neq 0$ を non-zero tripotent とする. \mathbf{c} に関する V の Peirce 分解を記述せよ. 結果として、特に \mathbf{c} は極大 tripotent であることを注意せよ.
- (5) V の元 $\mathbf{x} \neq 0$ のスペクトル分解はどうなるか.
- (6) V の自己同型群 $\text{Aut}(V)$ は、 $n+1$ 次直交群 $O(n+1)$ であることを示せ.
- (7) V の構造群 $\text{Str}(V)$ を

$$\text{Str}(V) := \{g \in GL(n+1, \mathbb{R}); g(\{\mathbf{x}, \mathbf{y}, \mathbf{z}\}) = \{g\mathbf{x}, {}^t g^{-1}\mathbf{y}, g\mathbf{z}\} \quad (\forall \mathbf{x}, \mathbf{y}, \mathbf{z} \in V)\}$$

で定義すると、 $\text{Str}(V) = GL(n+1, \mathbb{R})$ となることを示せ.

- (8) $\mathbf{e}_0 \in V$ は第 0 成分のみ 1 で、他の成分は 0 である縦ベクトルとする. すなわち

$${}^t \mathbf{e}_0 = (1, 0, \dots, 0).$$

極大 tripotent \mathbf{e}_0 に付随する実 Siegel 領域 D は次のように記述されることを示せ：

$$D = \{\mathbf{x} \in V; x_0 > x_1^2 + \dots + x_n^2\}.$$

また D は適当な affine 変換の群で等質な領域になっていることを示せ.